

平成30年3月28日

小野市議会議長 山中 修己 様

派遣議員 山本 悟朗 ㊟

議員派遣報告書

先般、実施しました 議員派遣の結果について、下記のとおり報告いたします。

記

1 派遣日 平成30年 3月17日(土)～平成30年 3月18日(日)

2 派遣議員 山本 悟朗

3 派遣先及び内容

(1) 3月17日 京都市

シンポジウム「自動運転が変える京都のまちと暮らし」聴講

(2) 3月18日 京都市

「自動運転車両による京都市内での実証実験」の様子を視察

4 調査結果

【第1日】

京都市

《項目》

シンポジウム「自動運転が変える京都のまちと暮らし」聴講

《内容》

シンポジウム

基調講演 「自動運転社会はどこまで近づいているのか」

東京大学教授 生産技術研究所教授・千葉実験所 須田 義大 氏

講演の具体的な内容については、昨年12月に受講した内容とほぼ同じで、自動運転社会の実現に向けた現在の進捗状況を技術的側面、法の整備状況、社会的反響などを交えて、一般の市民に解りやすく解説いただいた。

パネルディスカッション① 「京都市民の暮らしと自動運転」
～自動運転に期待すること、懸念すること～
～京都市の市政課題とその解決可能性～

パネリスト

東京大学教授	須田義大 氏
立命館大学特任教授	塚口博司 氏
同志社大学教授	
モビリティ研究センター長	佐藤健哉 氏
龍谷大学副学長 社会学部教授	長上深雪 氏
京都大学大学院工学研究科准教授	松島格也 氏
帝塚山大学学長 心理学部教授	蓮花一己 氏
京都市 都市計画局長	鈴木章一郎 氏

コーディネーター

(株)堀場製作所 石倉理有 氏

自動運転技術を京都市で早期実現することによる社会的意義、メリットとそれに向けた課題が話し合われた。

全国的規模で進行する高齢化問題の対処としての効果と、都市部、特に京都市で日常的に発生する交通渋滞と駐車場不足の問題を解決する特効薬であることが話し合われた。

課題としては、導入までのタイムテーブル、法整備のタイミング、市民の意識などが挙げられた。

パネルディスカッション② 「私が考える京都の交通課題と処方箋」
～同志社大学、名古屋大学連携企画～
～市民意見や参加者意見の共有～

名古屋大学と同志社大学の学生が3グループに別れ、研究した上記課題について発表をおこなった。

市民からパネリストに対して質問、パネリストが応答するというスタイルでいくつかのやりとりが行われた。

質問側の市民は、全て自動運転の導入推進派で、導入までの課題を乗り越える方法についての質問が相次いだ。

【第2日】

京都市

≪項目≫

「自動運転車両による京都市内での実証実験」の様子を視察

≪内容≫

平安神宮周辺で行われた自動運転車両を用いた実証実験（試乗会）に参加。

実証実験は公園内を自動で運転し、周りの公道を人が運転して走行する形で行われた。公園内は誘導線に従って運行がなされ、障害物もないことからスムーズに運行されていた。

公道においては、人が運転するものの、実験車両の最高速度は時速20キロメートルであり、一般車両との兼ね合いが気にかかっていたが、実際に走行の模様を観察したり、実際に試乗してみると、思いのほか他の交通に与える影響は少ないと感じた。

（実際には添付する動画資料を見ていただきたい。）

【所感】

講演、パネルディスカッションの内容は、昨年12月の研修内容を上回るものではなかったが、今回のプログラムは、一般市民向けに用意されたものであり、京都市はすでに導入推進を進めている様子が見られる。

自動運転については2045年を目処に一つの完成形を見ることが予測されているが、小野市においては高齢者の移動困難解消問題がピークとなるのは、それ以前となる。

自動運転技術の進化を見据えつつ、いつどのような形で対応するインフラを用意するか、ある部分においては、全国的に画一的に進行する部分が出てくるであろうが、わが町の特性を生かした取組をどう始めるか、具体策を念頭に置いて議論する時期が来ている。